

## 2013年度 大学院言語文化研究科附属言語文化研究所事業一覧

### I. 研究部事業

#### ① 研究員による基礎研究

小野里 美帆 (教育学部准教授)

「母親の言語的関わりと幼児の言語発達との関係について：絵本遊び  
場面による分析を通して」

#### ② 研究員による共同研究

研究題目 「多言語社会の中の共生  
Living Together in a multi-lingual society」

代表者 リチャード A. ローガン (文学部教授)

分担者 稲垣 泰一 (文学部教授)

馬 耀 (日本女子大学非常勤講師)

名嘉 友子 (言語文化研究所準研究員)

川島 絹江 (文教大学非常勤講師)

平川真規子 (文学部教授)

浅野 明代 (東京国際大学教授)

鈴木 一徳 (言語文化研究所準研究員)

長谷川 清 (文学部教授)

邵 建国 (北京外国語大学教授)

姜 瑛 (言語文化研究所準研究員)

蔣 垂東 (文学部教授)

馬 小兵 (北京大学教授)

趙 仲 (言語文化研究所準研究員)

### ③日中韓言語・文化に関する国際学術シンポジウム

2013年10月4日（金） 14：40～17：50 415R

1. 発表題目 「中国語文と日本語文における漢字機能の異同」  
発表者 于 日平（北京外国語大学教授）
2. 発表題目 「(動詞) なそうだ」と「(動詞) なさそうだ」に関する使い分け－韓国語母語話者に対する日本語教育の観点から－」  
発表者 安 平鎬（韓国誠信女子大学校教授）
3. 発表題目 「漢語に由来するオノマトペの韓日両言語での定着過程と現状」  
発表者 権 景愛（韓国外国語大学校教授）
4. 発表題目 「外国資料と日本語史の研究－中国資料を中心に－」  
発表者 蔣 垂東（文学部教授）

コメンテーター

馬 小兵（北京大学教授）、徐 滔（北京外国語大学教授）、  
津留崎由紀子（文教大学兼任講師）、阿川 修三・磯山 甚一・  
長谷川 清（文教大学教授）

### ④研究例会

第1回 2013年11月27日（水） 16：20～17：50 3303R

1. 発表題目 「日・中・英語の結果構文とその習得について」  
発表者 四谷 厚子（大学院言語文化研究科 修士2年）
2. 発表題目 「第二言語学習者の形態素習得研究の発展：3人称単数現在-sと複数形-sの使用から」  
発表者 渋谷真由美（文教大学非常勤講師）

第2回 2014年2月12日(水) 16:20～17:50 436R

1. 発表題目 「明治期日本における大陸政策の展開と大陸浪人の活動－日清戦争期を中心に－」

発表者 姜 瑛(言語文化研究所準研究員)

2. 発表題目 「内面性と主体性の関与から見る心理動詞」

発表者 趙 仲(言語文化研究所準研究員)

#### ⑤紀要発行

2014年3月15日発行 『言語と文化』第26号

#### ⑥2012年度研究員による基礎研究の報告

1. 研究題目 「現代美術家による宮沢賢治絵本」

研究者 中川 素子(教育学部教授)

※「言語と文化」第25号に論文が掲載されています。

2. 研究題目 「日本茶の湯文化における「わび」と「数奇」の文化概念」

研究者 中村 修也(教育学部教授)

※「言語と文化」第25号に論文が掲載されています。

#### ⑦2012年度研究員による共同研究の報告

研究題目 「再生と希望のコミュニケーション  
Recovery and Hope Through Communication」

代表者 リチャード A. ローガン(文学部教授)

分担者 長谷川 清(文学部教授)

張 慧芬(北京外国語大学教授)

馬 小兵(北京大学教授)

蔣 垂東（文学部教授）  
馬 耀（日本女子大学非常勤講師）  
館野由香理（文教大学非常勤講師）  
坂本 真理（言語文化研究所準研究員）  
会沢 信彦（教育学部教授）  
藤枝真紀子（戸田市立新曾中学校）  
藤枝 静暁（川口短期大学准教授）  
平川真規子（文学部教授）  
浅野 明代（東京国際大学教授）

平成24年度の共同研究は、「再生と希望のコミュニケーション：Recovery and Hope Through Communication」というテーマをもとに、各分野から研究された。それぞれの研究成果は、夏期講座や研究会・紀要「言語と文化」第25号にて発表された。

#### 【紀要】

- 1) 会沢：産後こころの不調に悩む母親を対象とした自助グループの試み（2）－継続参加者の心的変容について－
- 2) 平川：日本人英語学習者と英語母語話者のナラティブ構造に関する一考察

#### 【夏期講座】

- 1) 馬耀：「生活のなかの中国語会話」
- 2) 館野：「中国語で歌うテレサ・テン」
- 3) 張：「会話表現からみた日中比較－中国人のこころと文化の表現」

#### 【特別研究会】

馬小兵：「東アジア地域の言語文化研究の課題－日中比較の視点から」

## 【研究例会】

浅野：「日英語コミュニケーション比較：日本語の視点・英語の視点」

## 研究部より

リチャード A. ローガン

今年度も研究部を担当させて頂いた。大学院付属の研究所として、先生方や院生のために少しでもお役に立つように努めた。研究所のスタッフ各位からご助力を得て、計画した研究活動を無事に終えることができたと思う。

今年度の共同研究のテーマ「多言語社会の中の共生」を基に、各分野（日本文学、日本語教育、英語教育、中国語、社会学など）から研究がなされた。多文化時代に相応しく、それぞれ多角的な観点から研究がなされた点で、今後大いに成果が期待される。研究成果は研究会で発表され、紀要にも興味深い研究論文が寄せられた。

研究部は2009年度から研究定例会を開催している。詳細は前述の活動報告を見ていただくとして、今年度第一回は、文学部非常勤講師渋谷真由美先生と院生四谷厚子さんのお二人に、第二回は、北京外国語大学との協定により準研究員として受け入れた姜瑛さんと趙仲さんのお二人に、それぞれ発表をしていただいた。さらに充実した研究会にすることができたことを感謝申し上げます。

このように充実した研究活動が行えるのは、共同研究と基礎研究にご参加頂いた先生方、ならびに紀要掲載論文をご執筆くださった先生方の

お陰である。そして研究定例会で発表された先生方、院生、研究員の皆様のご協力も必要である。これからも言語文化研究所へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

## II. 研修部事業

### ①夏期公開講座報告

#### (1) 英語教育夏期講座

－英語を学び続ける－

対 象：中学校・高等学校英語科教員または教員志望者。

埼玉県内在住または勤務する方。

目 的：英語教育についての理解を深める

期 日：平成25年8月2日（金）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3401R）

参 加 者：74名

### 講義・発表内容

#### 講義① 「ことばを面白がる英文読解」

芦田川祐子(文教大学)

英語を学ぶ目的として、英語を使えるようになることだけでなく、「ことばの面白さを体験する」ということも挙げられると思います。ここでは、主として英語のナンセンス文学やジョークを題材にとりあげ、英語と日本語それぞれの特性を意識しながら、ことばで遊びことばに遊ばれる体験を通して、「読む（解釈する）」とはどのような行為なのかを考えていきます。

#### 講義② 「Article use by Japanese L2 learners :

Types of problems and possible explanations」

Neal Snape (群馬県立女子大学)

For Japanese learners of English, articles (the & a) in English are notoriously difficult to acquire. Even at advanced levels of

proficiency, Japanese speakers continue to experience problems with selecting the appropriate article to use in speech, writing and have trouble hearing (perceiving) articles. But, why is it so difficult in comparison with acquiring other morphology in English like possessive -s, for example? This lecture looks at some of the typical types of problems Japanese learners have with articles and tries to provide some possible explanations. Anyone who has ever experienced such difficulties will hopefully find this lecture interesting and useful and may even help you overcome some of your own typical article errors.

### 講義③ 「英語授業の組み立てと評価」

新里 眞男(語学教育研究所)

新学習指導要領による授業が中学校では昨年度から、高校では今年度から始まった。それと呼応して「Can-Doリスト」の形での学習到達目標設定による指導の方針が示された。これらを日々の授業の中でどのように具体化していったらよいだろうか。例えば、課全体の目標の設定方法、それに応じた毎授業の組み立て方、そして、実際の授業の運営方法、さらには、どんな評価活動を行うべきか。これらについて考えたい。

### (2) 日本語教育夏期講座

－日本語教育と協働的学習－

～ピア・ラーニングによる学び～

対 象：現在日本語教育に携わっている方、または日本語教育に関心のある方。埼玉県内在住または勤務する方。



目 的：日本語教育についての理解を深める。

期 日：平成25年8月2日（金）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3501R）

参 加 者：13名

## 講義・発表内容

「協働」という言葉は様々な分野で使われていますが、この協働を教育に取り入れたものが、「ピア・ラーニング」です。ピア・ラーニングによって学習はどのように変化するのでしょうか。今回の講座では、このピア・ラーニングを活用した日本語教育の背景や理論を学び、実際に体験していきます。昨年に引き続き開講いたしますが、タスクの内容を変更しておりますので、初めての方も昨年受講してくださった方も楽しんで頂けるとと思います。

### 講義① 「ピア・ラーニングとは何か」

影山 陽子(日本女子体育大学)

従来の授業と比べながら、ピア・ラーニングの特徴およびその背景・理論を学んでいきます。これからの日本語教育に必要なピア・ラーニングにおける基礎知識を習得します。

### 講義② 「ピア・ラーニングの体験」

影山 陽子(日本女子体育大学)

受講生の皆様に、ピア・ラーニングを生かした作文学習を実際に体験していただきます。自分の視点や考えが、他者の視点や考えによってどのように変化するのか、インターアクションによって何が起るのか、多くの気づきを得てください。

### 講義③ 「ピア・ラーニングの日本語教育への活用例」

小笠恵美子(津田塾大学)

講義②の内省をしながら、実際に授業場面においてどのようにピア・ラーニングが活用できるのか、事例を紹介しながら、皆で考えていきます。学習者の気持ちで、インターアクションを見つめ、ピア・ラーニングならではの「学び」について考えましょう。

#### (3) 中国語教育夏期講座

－中国語の学習とことばの現在－

対 象：現在中国語教育に携わっている方、または中国語学習者。埼玉県内および近郊に在住または勤務する方。

目 的：中国語教育についての理解を深める

期 日：平成25年8月2日（金）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3307R）

参加者：20名

### 講義・発表内容

#### 講義① 「躍動する社会とことば－『新語』が生まれる背景」

魏 然(北京外国語大学)

皆さん、「留守児童」、「富二代」、「白富美」という中国語の「新語」を見たことがありますか？最近中国の急激な経済成長と社会の変化を反映するように、中国では日々「新語」「造語」「流行語」が生まれています。その中で、特に今現在注目されている社会現象を映し出すいくつかの「新語」について、映像を見ながら紹介していきたいと思います。言葉の学習を通して、中国社会に対する理解を少し深めていただければと思います。

## 講義② 「中国語中古音と日本漢字音－中国語学習へのアプローチ」

館野由香理(文教大学非常勤講師)

私たちが普段使っている漢字は、中国から伝えられたものであり、漢字と共に当時中国で使われていた漢字の音も日本に伝えられました。そのため、中国語を発音する際、日本の漢字の音読みがヒントになる場合があります。

本講義では、日本に漢字が伝えられた時代の中国語（中古音）と、日本の漢字の音読みにはどのような対応関係があるのか実態を調査し、中国語の学習・指導への活用法を考えたいと思います。

※漢和辞典をお持ちでしたら、ご持参ください。

## 講義③ 「北京のことばの今－教科書と現実」

山田 忠司(文教大学)

昨年度1年間北京で研究に従事する中で得た、最近の「ことば事情」を紹介したいと思います。具体的には以下のような話題を予定しています。

- 1) 教科書と実際の中国語のギャップ
- 2) 共通語と北京語について
- 3) 辞書での意味と実際の意味
- 4) 『現代漢語詞典第5版』（現代中国語規範提示のための辞書の最新版）改訂を巡る話題
- 5) 新興語法、新興語彙について

## 英語教育夏期講座



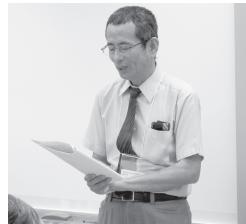
## 日本語教育夏期講座



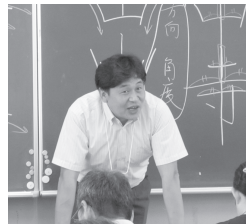
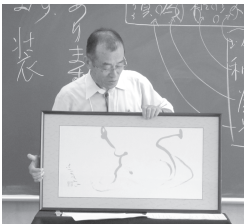
## 懇親会



## 中国語教育夏期講座



## 書写書道教育夏期講座



#### (4) 書写書道夏期講座

対 象：小中学校国語（書写）、高等学校書道担当教員。書道愛好者。埼玉県内在住または勤務の方など。

目 的：書写書道教育についての理解を深める。  
作品制作を通じて、書の表現力を高める。

期 日：平成25年8月1日（木）・8月2日（金）の両日

会 場：文教大学越谷校舎 4号館（422R・426R）

参 加 者：43名

#### 講義・発表内容

A（書文化）コース
-----------

426R

講義① 創作（1）・創作の手順

講義② 創作（2）・漢字の書を中心に作品の構想を練る

講義③ 創作（3）・構想をもとに試書する

講義④⑤ 創作（4）・小品（半切以下）を仕上げる

講義⑥ 講義 ・書の鑑賞の態度

講師：吉沢 義和（元文教大学文学部教授）

書作品の創作と鑑賞について学びます。書作品制作の過程・手順を学び、漢字を素材とした創作に取り組みます。受講者によって書道経験はそれぞれですが、創作のための基礎から学び、小品作品を仕上げてみましょう。また、作品制作を通して、書作品の鑑賞方法についても学びます。

- 講義① 新学習指導要領概説・改訂のポイント (小中高)
- 講義② 実技 (1)・基本的な用筆法・運筆法
- 講義③ 実技 (2)・漢字 (楷書)
- 講義④ 実技 (3)・漢字 (行書)
- 講義⑤ 実技 (4)・平仮名・片仮名・漢字仮名交じりの書
- 講義⑥ 実技 (5)・その他 (草書・隷書・篆書・仮名など)
- 講師：豊口 和士 (文教大学)

小・中学校国語科書写、高等学校芸術科書道の指導に必要な知識・技能について、基礎基本となる事項について学びます。技能面では、基本的な用筆法・運筆法から始め、書写および書道の学習領域全般について幅広く確認していきます。また、新しい小中高学習指導要領についても改訂のポイントを概説します。

## ②異文化体験講演会

日 時：平成26年1月15日 (水) 16:20～17:50

演 題：「ファストフードから読み解くアメリカ文化」

アルバイトのできない「学生ビザ」でアメリカ滞在をすると、外食は必然的にファストフードになります。レストランでは必要なサービス料「チップ」が、ファストフード店ではいらないからです。そして、アメリカには、「マクドナルド」、「ケンタッキー・フライドチキン」、「サブウェイ」などファストフードの世界的チェーン店があるのですが、これらのお店、日本のそれと一っしょのようで、実はけっこう違う。そ

うしたことを中心にお話したいと考えています。

講演者：森本 奈理（文学部専任講師）



研修部より

ジェームズ・グラハム

夏期講座は例年通り好奇心旺盛な参加者に恵まれ、リピーターの方も初めての方も、蒸し暑さに負けず、楽しみながら積極的に視野を広げた。

今年も書道教育講座は二コースに分け、元文教大学文学部教授吉沢義和先生、本学文学部の豊口和士先生が、それぞれ書道の鑑賞方法や創作、学校での指導に不可欠な技能について講義された。

語学関係三部門のメニューも盛りだくさんだった。

日本語教育のテーマは、学習者の学習者から学ぶ「ピア・ラーニングとは何か」というものだった。日本女子体育大学の影山陽子先生が、その教室のあり方における特徴や考え方について受講者に講義した。また

津田塾大学の小笠恵美子先生が、実例を取り上げながらピア・ラーニングが如何に日本語教師に応用されているか紹介した。

一方、中国語教育に関する内容は、新語・同じ漢字圏である日本人にとっての発音問題・教科書が教えてくれない中国語についてだった。北京外国語大学の魏然先生が、映像を使って新しい表現を紹介し、如何にそのことばが社会現状を反映しているのか、ということにフォーカスをあてた。本学非常勤講師の館野由香理先生は、受講者に漢和辞典を持たせ、日本語の音読みを生かして中国語を学ぶコツを紹介した。本学文学部の山田忠司教授は海外研修から帰国したばかりで、教科書や辞書と現実との間のギャップを話題にした。

英語教育の最初の講義は、本学文学部の芦田川祐子先生だった。英語の実用的な面のみに集中して学習するのが如何にももったいないという趣旨で、文学作品からの実例を取り上げながら、文章に潜んでいる奥深い宇宙が楽しいナンセンスに構成されているという、笑いを招くメッセージを伝えた。その後、群馬県立女子大学のニール スネイプ先生が、日本人学習者をよく困らせる英語の冠詞とその難しさについて、間違いやすさの説明に力を入れた。最後に担当された、語学教育研究所の新里眞男先生による講義は、中高で教鞭を執る参加者の胸に特に響き、英語らしい英語を目標にする作戦について熱心に指導して下さった。

1月15日に開催された異文化体験講演会では、本学文学部のニューフェース森本奈理先生が講演者として招かれ、「ファストフードから読み解くアメリカ文化」を演題に、アメリカ留学時代の食生活について熱心に語った。チップ不要で値段が安く、貧しい留学生誰にでも魅力があ



る食事どころ。日本で馴染みのチェーン店が、発祥地のアメリカでは、社会的にも文化的にも経済的にも、想像以上に役割が大きいとよくわかった。

# 大学院附属言語文化研究所紀要 『言語と文化』の投稿原稿に関する規程

(目的)

第1条 大学院附属言語文化研究所は、紀要『言語と文化』に掲載される「論文」、「研究ノート」等の投稿原稿（以下、「原稿」）が、言語と文化に関する学術研究にふさわしい水準を保ちうるよう、査読の制度をおく。本制度の運営は、研究所委員会が責任を負うものとする。

(投稿資格)

第2条 原稿を投稿できる者は、以下のとおりとする。

- 1) 本学教員および本研究所専任研究員・研究員・客員研究員・準研究員
- 2) 本研究所が委嘱した者
- 3) 本学言語文化研究科在籍者（研究指導教員の推薦を受けた者）

(原稿の枚数・体裁・使用言語・締め切り等)

第3条 原稿は未公開のものに限り、以下の要領に拠るものとする。

- 1) 論文・研究ノートは、400字詰め原稿用紙30枚以内とし、横書き・縦書きのいずれも可とする。
- 2) 使用言語は、日本語・中国語・英語・ドイツ語・フランス語のいずれかとする。論文には必ず本文以外の言語で書かれた要旨を付すものとする。

- 3) 原稿の提出先は言語文化研究所事務室とし、毎年1月8日締め切りを原則とする。
- 4) その他、執筆と投稿に関して必要な事項については、別に申し合わせる。

(審査)

第4条 研究所委員会は、投稿された原稿（論文及び研究ノート）1編につき、原則として2名の査読者を選定し、査読を依頼する。

(掲載原稿の決定)

第5条 研究所委員会は、査読者による査読結果を十分に斟酌して、掲載の可否を決定する。

(査読者の匿名性)

第6条 査読者は匿名とする。研究所委員会は査読者名を公開しない。

(規定の改正)

第7条 本規定の改正は、研究所委員会において検討し、言語文化研究科教授会へ報告後、学長の決裁を受ける。

付則

この規定は2012年4月1日より施行する。